

トピックス

令和6年度の但馬牛種雄牛現場後代検定成績

毎年、基幹種雄牛を選抜するために産肉能力を推定する現場後代検定を実施している。令和6年度現場後代検定成績が判明し、^{ひさたつどい}「悠竜土井」^{しげたなみ}「茂田波」^{きたよしおく}「北喜奥」の3頭が基幹種雄牛に選抜され、令和7年度から供用が開始される。

内 容

現場後代検定法とは、種雄牛^{※1}の産子を実際に肥育した枝肉成績を基に種雄牛の産肉能力を推定する手法である。

検定には、種雄牛1頭につき繁殖雌牛40頭から生産した各種雄牛の産子の中から、6か月齢時の発育と体型の良好な個体を16頭選抜したものをを用いる。それらを県内肥育農家2戸(8頭)と畜産技術センター(8頭)の3か所で肥育し枝肉成績を確認することで育種価^{※2}を算出し種雄牛の産肉能力を推定する。

令和6年度に成績が判明した検定種雄牛は、^{ひさあつどい}「悠温土井」^{ひさ}「悠竜土井」^{きたきくさかえ}「茂田波」^{ひさ}「北菊栄」^{まつどい}「悠松土井」^{はるなかどい}「春仲土井」^{ひさ}「北喜奥」であり、現場後代検定成績から算出した育種価をランク表記で示す(表)。

この結果を踏まえ検定種雄牛7頭と令和6年度の基幹種雄牛12頭の産肉能力を比較し、細かさ指数が優れた「悠竜土井」、枝肉重量、脂肪交雑が優れていた「茂田波」、脂肪交雑が優れていた「北喜奥」の3頭を令和7年度の基幹種雄牛に選抜した。

表 令和6年度の種雄牛現場後代検定成績

種雄牛名		悠温土井	悠竜土井	茂田波	北菊栄	悠松土井	春仲土井	北喜奥
血統	父名	芳悠土井	芳悠土井	茂和美波	宮菊城	芳悠土井	丸春土井	宮喜
	母方祖父名	丸富土井	丸富土井	芳悠土井	丸宮土井	丸宮土井	芳悠土井	丸宮土井
育種価	枝肉重量	C	C	A	A	B	A	C
	ロース芯面積	A	C	A	A	C	A	D
	バラ厚	D	D	A	A	D	A	D
	皮下脂肪厚	B	A	C	B	A	D	B
	推定歩留	A	C	B	A	C	A	C
	脂肪交雑基準	B	A	A	B	B	A	A
	細かさ指数 ^{※3}	B	A	D	C	B	A	C
	MUFA ^{※4} 割合	D	D	D	A	D	D	D

A: 上位 25% B: 上位 25～50% C: 下位 25～50% D: 下位 25%

今後の方針

選抜した3頭の種雄牛を含む12頭の基幹種雄牛を活用して、引き続き但馬牛改良のスピードアップと神戸ビーフ、但馬牛のブランド力の強化を図る。

※1 種雄牛：人工授精に使用する雄牛。現場後代検定実施中の種雄牛を「待機牛」、一般供用される種雄牛12頭を「基幹種雄牛」と呼ぶ。

※2 育種価：遺伝的能力を数値で示したもの。皮下脂肪厚は小さいほど、その他の形質は大きいほど能力が高い。

※3 細かさ指数：ロース芯に含まれる細かなサシの割合。

※4 MUFA：モノ不飽和脂肪酸の略。筋間脂肪の質の基準となり、脂肪の口溶けや舌触りの良さに関係する。

吉田 裕一（朝来家畜保健所 前 北部 畜産部）